

臨床研究の実施に関する情報公開

金沢医科大学病院では、研究倫理審査委員会の承認を得て、実施機関の長の許可のもとに下記の臨床研究を実施しています。

患者さん又は患者さんの代理の方が、この研究のために患者さん本人の情報等を使用・提供されることにご了承いただけない場合は、問合せ先までご連絡ください。情報の使用等についてお断りになられても、患者さんに不利益となることはございません。

研究課題名	多焦点眼内レンズ亜脱臼に対する縫着糸を用いた眼内再固定術
研究機関名	金沢医科大学
研究機関の長	学長：宮澤 克人
研究責任者	金沢医科大学 眼科学 水戸毅
研究参加拒否 申込受付期間	2027年5月31日までにお知らせください。 上記の日付以降は、匿名化の処理を行い個人の判別が出来なくなるため研究対象からの除外は出来なくなりますので、研究参加の拒否をされる場合は期日までをお願いいたします。
研究期間	研究実施許可日 ～ 2027年6月30日
対象者	2023年1月から2025年12月の間に金沢医科大学眼科にて多焦点眼内レンズ亜脱臼に対して縫着糸を用いた眼内再固定術を施行した患者さん
当該研究の意義・ 目的	多焦点眼内レンズが亜脱臼を生じると視力低下や網膜剥離などの合併症につながります。多焦点眼内レンズを温存して眼内で再固定することは基本的に困難であり、通常は亜脱臼した多焦点眼内レンズを抜去し、新たに単焦点眼内レンズを眼内に再固定します。しかしその治療法ではこれまで遠方から近方まで見えていた多焦点性が失われてしまいます。我々は亜脱臼した多焦点眼内レンズを眼内に温存するために、従来から存在する異なる2つの術式を組み合わせた新しい方法で多焦点眼内レンズを眼内に再固定する方法をおこなっており、これまでに良好な視力成績を収めています。ただし、日本国内はおろか世界的にみてもその術式における論文としての報告が全くないため、手術後の視機能、手術中の安全性や手術後の合併症についての詳細が不明です。そこで今回、この手術を受けられた患者さんの手術前後の検査結果をカルテから抽出して解析することが目的です。その結果を学会発表や論文発表としておこなうことにより、本術式の有効性や安全性、問題点などが明らかとなることが予想されます。その結果、この術式が広く普及する可能性があり、国内で多焦点眼内レンズ亜脱臼で苦しむ患者さんの利益につながるものと考えられます。
方法および研究で 利用する試料・情 報の取得方法	本研究は、対象患者さんのカルテから術前後の視機能に関する情報を収集し、得られたデータから術後視機能に関する有効性や、術中の安全性、術後合併症などを解析します。この研究のために、患者さんに新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。収集するデータは具体的には患者背景である年齢、性別、手術日、眼内レンズの種類、術式などです。さらに術後成績に関するデータとして、視力（全距離視力）、眼内再固定術後の多焦点IOLの傾斜・偏心・固定深度、コントラスト感度、角膜内皮細胞密度や、さらに術中と術後の合併症についても情報収集します。
利用又は提供する 外部への試料・情 報の提供	外部への提供はありません。
個人情報の開示に 係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の問合せ先にご相談ください。

利益相反について	この研究の計画・実施・報告においては、金沢医科大学利益相反マネジメント規程に則って、適正に行われます。また、この臨床研究にご参加いただくことであなたの権利・利益を損ねることはありません。
資料の閲覧及び研究対象者等の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する旨について	あなたからのご要望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、この研究の計画や方法についての関連資料をご覧いただくことができますのでお申し出下さい。この研究で得られる結果を実際の治療に結びつけるには、今後さらに研究を進める必要があり、今すぐ、個人の病気の治療などに役立つものではありません。以上のことから、今回の研究では、ご本人に関する解析結果をお知らせする事は想定しておりません。
問合せ先	その他、この研究に関するお問い合わせは、下記へご連絡ください。 金沢医科大学 眼科学 水戸毅 住所：石川県河北郡内灘町大学1-1 ☎：（代表）076-286-2211

作成日：2026年8月12日